

食育事業取組報告書(佐々木小学校)

食育活動区分	(該当するものを口で囲む) 育てる・作る・食べる・返す	実施年月日	令和6年 4月10日～ 令和7年 2月28日
教科名	1・2学年 生活科 5学年 社会科・総合的な学習の時間	指導者	
単元名	1・2学年「やさいをそだてよう」 5学年「米作り」		
ねらい	発達段階に応じた理解で、食を支える農業の苦労や努力とともに、その育成や収穫の喜びを知り、自分の住む佐々木地区を中核として食への関心や食に対してかかわる態度を高める。		
児童・生徒の活動		支援・指導上の留意点	資料
1・2学年「やさいをそだてよう」 ◇4月 野菜の苗や種の観察・栽培のし方調べ ・種や苗の大きさや形状を観察するとともに、栽培方法や配慮することを調べたり伝えあったりした。小さな種や苗が大きくなっていくことに驚き、期待を抱きながら苗植えや種まきを楽しみにした。 ◇5月～7月 野菜の栽培 ・1年生は、共通にサツマイモを栽培した。2年生は、1年生時の学びを生かし、自分の育てたいと願った野菜苗を選んで栽培した。 ・野菜の先生として、用務手さんからお話を聞き、種や苗を植えた。水やりをかかさないと虫がつく害を防ぐことなどに注意して栽培をした。 ◇6～7月、10月、12月 野菜の収穫・収穫物を”生活に生かす”工夫 ・小さな種や苗が大きくなることを喜ぶと共に、しっかり手入れをする大切さを知った。普段食べている野菜が、大切に育てられたものであることを知り、普段食べている野菜なども大切にしていきたいと関心を高めた。栄養士さんからも野菜パワーの秘密を教えていただき、ますます野菜を大切にしたいとの思いをもった。 また、サツマイモでは、収穫した後の茎などもリース工作に使えることを知り、捨てるどころがなく、生活に行かせるという農の大切さを知った。		・1学年 さつまいもを育てる子どもたち ・収穫の喜び ・ツルもリースに    ・2学年 野菜を育てる子どもたち ・畑の先生に教えてもらって、栽培  	
5学年「米作り」 ◇5月 ・社会科の時間に、稲作について学び、田植えまでもに様々な苦労があることを知った。そのような苦労の結晶の田んぼが佐々木地域にたくさんあることを知り、自分たちでもお米を作って食べたり、配ったりしたいと意欲を高めた。 ・地域、JA佐々木地区青壮年部の方々の協力のもと、田植えを実施。普段食べているお米に対する苦労を実感をもって学んだ。 ◇9月 ・地域やJA佐々木地区青壮年部の方々の協力のもと、稲刈りを実施。 ・大変な努力によって、普段の私たちの食が支えられていることを知った。 ・家庭科の学習と関連させて、おいしいお米の炊き方を調べた。新米を味わい、お米の良さを実感した。 ◇10月～12月 ・努力や苦労のもと収穫された喜びを、よりたくさんの方と味わいたい、佐々木のお米の良さを地域の方に知ってもらいたいと、全校やお世話になった方、新しく佐々木に来る新入学生の家庭に配付するよう計画した。佐々木のよさをアピールする手作りのラベルを作り、配付した。 ・食と農を通して、佐々木の良さを実感し、分かち合いたいと意欲を高めた。		・田植え・稲刈り・収穫を知らせる展示    ・全校へ手渡しで配付  ・フードバンクしばた様へのお米の贈呈 	

成果と課題	・低学年では、自分の野菜を自分の学校で育てるという、ごく身近での食と農を体験した。小さな種苗が大きくなり、いくつもの実をつける驚きや喜びを体験するとともにその世話の努力や苦労のもとに収穫の喜びがあることに気付き、食と農への関心を高めることができた。 ・5学年では、米作りを通して、普段見ている身近な田園風景への見方が変わり、稲作の大変さや大切さに気付くことができた。食と農を通して、佐々木の良さを実感した。また、作った物を分かち合い、幸せな気持ちになってもらいたいとたいと願いをもつことができた。 ・フードバンクしばたの方にお話をいただくことで、食べられることが当たり前でないという事実に関心し、目の前の食事をより大切にしようとする心が育まれた。食の学びを通して、自分たちのしていることの大切さも、より自覚できた。 ・各発達段階に応じながら、佐々木ならではの食育を計画しようとした。しかし、例年同じような活動になることが多い。基本的な活動計画は策定しつつも、各担任の工夫が取り入れられるように努めていきたい。 ・教育活動が持続可能になるための計画の見直しと蓄積、地域の教育素材や人材の整備が今後とも課題である。今年度は、基本的な計画に地域素材を明記することから始めた。
家庭・地域との連携	・例年、お世話になっている方への敬意を忘れずに、継承したい。特に、地域のJA青壮年部様は、佐々木小の食の学習に欠かせない存在である。田植えから稲刈りまでの丁寧な御対応や、稲刈り時のコンバインの試乗や脱穀体験までさせていただいた。感謝の気持ちを忘れずに、教育活動をより一層充実させたい。 ・3学年がお世話になっているホープ飯島さんは、地域の中でも、いくつかの農家さんが協働で運営している。今後の持続可能な営農のモデルにもなり、子どもたちが地域で学ぶための貴重な連携先である。いつも良くしてくださっており、見学の受け入れ方についても、子どもたちのモデルとなる素敵な連携先である。 ・フードバンクしばたの方との連携を、今後とも大切にしていきたい。お米を贈呈する際に、来てくださった方からは、毎回、頑張っている方のお話をいただいている。 そういったお話をいただくことで、目の前の食事が当たり前でないことを自覚し、自身の食の現状へ感謝の気持ちをもてるようになる。非常に貴重な連携の場である。